

故社員の一言今尚精神

福澤諭吉

青空文庫

明治元年正月、伏見の変乱、前將軍慶喜公は軍艦に乗て東歸、
 次で諸方の官軍は問罪として東海東山の諸道より江戸に入り、関
 東の物論沸くが如く、怒て官兵に抗せんとする者あり、恐れて四
 方に遁逃する者あり。江戸広しと雖ども、市に売る者なし、家
 に織る者なし。学者書生の如きもその行く所を知らず、大都会中
 復た一所の学校を見ず、一名の学士に逢わず。独り我慶應義塾の
 社中は、偶然の発意にして断じて世事に関せず、都下の東南芝新
 錢座の塾舎に相集りて眠食常に異ならず、彈丸雨飛の下、呶語の
 声を絶たざること殆ど半年、社中自称して戰場中の一小桃源と云
 いしは蓋しこの時なりき。

この際に当て府下百万の人民は一時に方向を失い、固もとより官軍の何ものたるを知らず、仮令たとい東征の名義うんぬん云々は伝聞するも、その官軍なるものが江戸に入たる上は何等の挙動あるべきや、之を測量すること甚はなはだ易やすからず。数百年来未いまだ曾かつて見ざる所の軍事なれば、軍人とあれば必ず乱暴なるものならん、乱暴人は之を避くるに若しかずとて、下等社会の群民は無論、上流の士人にても或あるいは俄にわかに家を挙げて藩地に帰る者あり、或は近郷に故旧あれば暫時これに身を寄する者あり。その中に就ついて独り西洋学者の流は深謀遠慮にして、窃ひそかに謂おもらく、官軍或は暴ならん、仮令たとい暴なりと雖ども西洋人に害を及ぼすことは彼輩の能よくする所に非あらざるべし、左れば我輩の抛よりて以もつて頼む所は横浜にある外国人居留地の安全なる

に若くものなしとて、該地に居を移す者日に多く、府民も亦この
 例に倣ならうて皆横浜に走り、浜の市中既すでに充満して、その東南なる
 北方村、本牧村等に及ぼし、一時はその地方にて家賃宿料の騰貴とうき
 するに至れり。今日在東京の紳士学者にして既往を回想したらば
 自みずから之を記憶する輩も多からん、又或あるはその当局者もあらん。
 斯かる世上の有様なれば、在江戸の人にして苟いやしくも横浜在留の西洋
 人に知る者あれば、西洋人も亦私またに之これを保護せんとするの情を抱
 き、或は仮に某国の籍に入れと云いう者あり、或はその印鑑を与え
 て万一危急のときはこの印鑑を官軍に示して一時を免まぬかれよと云
 う者あり。何れも皆深切の情に出ることにして、敢あえて奸策かんさくとは
 云うべからず。我義塾の如ごときも固もとより外人に知る者多ければその

顧る所と為りて、或る日某氏より態と印鑑を贈り来りしは、全くその友情に出たるものより外ならざるなり。

時に本塾の教員 小幡仁三郎 小幡篤次郎の実弟。明治四年亜米

利加に遊学中不幸にして同六年彼地に物故。この事を聞き、走て塾の広間に出て、顔色を變じ目を瞋らして同窓の諸友に告て曰く、諸君は今日の形勢を見て如何の觀を為すや、東軍西軍相戦うならんと雖ども、畢 竟 日本国内の戦争にして唯是れ内乱なるぞ、

我輩は文を事としてその戦争に関するなしと雖ども、内外の分は未だ之を忘れず、西軍或は暴ならん、東軍或は無法ならん、来て我輩に害を加えんとする者あらば、我亦男兒なり、よく之を防がん、之を防て力足らざるときは唯一死あるのみ、堂々たる日本国

人にして報国の大義を忘れ、外人の庇護の下に苟も免かれんより、
 寧ろ同国人の刃に死せんのみ、我輩が共にこの義塾を創立して共
 に苦学するその目的は何処に在るや、日本人にして外国の書を読
 み、一身の独立を謀てその趣旨を一國に及ぼし、以て我國権を皇
 張するの一点に在るのみ、然るを今にしてこの大義を顧みざるが
 如きは初より目的を誤るものと云うべし、我義塾の命脈を絶つも
 のと云うべし、彼の印鑑の如きは速に之を火に投じて可なりとて、
 その語氣凜々、決する所あるが如し。聞く者悚然として復
 た一言を発せず。之より社中の氣風益固結して曾て動変すること
 なく、爾後王政維新の太平に逢い又無数の事変をも目撃したれど
 も、報国致死は我社中の精神にして、今日我輩が専ら國権の議論

を主唱するも、その由来一朝一夕に非^{あら}ず、蓋^{けだ}し社中全体の気風なりとは雖ども、仁三郎君の一言亦重しと云うべし。往事回顧すれば十五年、社中君を喪^{うしな}うてより又十年、今の学友或は之を知らざる者もあらん。記して以て君の言行の一斑を知らしめ、兼て天下国権論者の警^{いましめ}に供す。

青空文庫情報

底本：「福澤諭吉著作集 第5巻 学問之独立 慶應義塾之記」
慶應義塾大学出版会

2002（平成14）年11月15日初版第1刷発行

底本の親本：「時事新報」

1882（明治15）年3月27日

初出：「時事新報」

1882（明治15）年3月27日

※【】内の編者による解説は省略しました。

※底本の編者による語注は省略しました。

※初出時の署名は「慶應義塾 某」です。

※□ 付きの傍註は、編集者によります。

入力：田中哲郎

校正：hitsuji

2019年12月27日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

故社員の一言今尚精神

福澤諭吉

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>